

九州の飼料畑における帰化雑草の発生実態

佐藤節郎・館野宏司・小林良次 (九州農業試験場)

Seturo SATO, Koji TATENO and Ryoji KOBAYASHI : Occurrence of Naturalized Weeds in Forage Crop Fields in Kyushu

近年、飼料畑において帰化雑草が発生し問題となっているが、その発生の実態はまだ十分に把握されていない。昨年に引続きアンケート調査により、九州各県の飼料畑における帰化雑草の発生の実態を調査した。

1. 材料及び方法

1993年に九州各県の飼料作物関係研究機関に、飼料畑での雑草の発生状況、防除法等について実態調査を依頼し、6県から回答を得た。

2. 結果

1) 回答のあった6県で、16科69種の雑草が認められ、うち36種が帰化雑草であった。発生が多かったものは、キク科、イネ科、ナス科であった。キク科は20種中15種が、またナス科は6種全てが帰化雑草であったのに対し、イネ科は15種中3種のみが帰化雑草であった。

2) 発生頻度の高かったものは、帰化雑草ではアメリカカイヌホオズキ、イチビ、ハリビユ等ヒユ類、アブラナ科雑草、アメリカセンダングサ、ノゲシ等であった。その中で、被害が大きかったものは、ハリビユ、アブラナ科雑草、イチビであった。また、発生頻度は高くないが被害の大きかったものとして、帰化雑草ではシヨクヨウガヤツリ (キハマスゲ)、セイパンモロコシ (ジョンソングラス)、エゾノギシギシであった。これらの雑草の多くはトウモロコシ・ソルガム等の夏作物圃場に発生した。

3) 沖縄県の永年草を除いた飼料畑では、刈取り後または休閑中に生糞、スラリー、堆肥を投入することが多かった。従って、輸入飼料に混入した雑草種子が厩肥を通じて圃場に蔓延する可能性が高いと考えられる。

4) トウモロコシやソルガムの栽培での雑草防除対策は、播種時にアトラジン、アラクロール、ペンディメタリン、アトラジン・メトラクロール混合剤等の除草剤を単独または混合して土壌処理するのみで、それ以降は雑草防除作業を全く行わないことが多かった。また、ローズグラス等の草地に発生したギシギシ類の防除にはラウンドアップのスポット処理で、イタリアンライグラス中のアブラナ科雑草の防除にはMCPAの茎葉処理でそれぞれ対応している事例がみられた。

5) 雑草防除対策は、一部の県で除草剤の適正な選択を指導しているものの、それ以外の特別な対策はとられていなかった。また、飼料作物では登録除草剤に限られるため、「有効な除草剤があっても使用を勧めることができない」という行政上の問題点を指摘する回答があった。

第1表 九州各県の飼料畑における主要な雑草の発生実態

雑草名 ^{a)}	発生頻度 ^{b)}					
	福岡	長崎	大分	熊本	宮崎	沖縄
ナス科						
ワルナスビ*		△○		△	△	
チョウセンアサガオ*		△		○	△	
センリホオズキ*				△	△	
アメリカカイヌホオズキ*		△	△	○	△	
テリミノイヌホオズキ*		○				○
アオイ科		△	○	△	○	△
イビキ*		△		△	△	
ヒルガオ科		△	○	△	△	
マルバハコウ草*		△				
クダ科		○	△	△	△	△
イヌクダ		○	△	△	△	△
ギシギシ		◎			◎	◎
エノ/ギシギシ*		◎				
ヒユ科			◎	△	◎	△
ハリビユ*			◎	△	◎	
アオビユ*			△		◎	
イヌビユ			◎			
その他		○	◎	△	○	○
アブラナ科						
ナズナ*					△	
カラクサガラシ*				△		
その他*		◎	△		△	△
マメ科						
カラスノエンドウ				△		
キク科						
アメリカセンダングサ*		△	◎	△	△	
タチアワキセンダングサ◆						◎
ハイアワキセンダングサ◆						◎
カミツレドキ*				△		
アメリカオアザミ*				○	△	
ムラサキカコウゾウアザミ						○
ハキゲメギキ*		△		△	△	
オオナモミ*		○	△	△	△	
ノゲシ*			○	△	△	△
ノボロギク*					△	△
アレチノギク*			○			
セイトカアワダチソウ*			○			
ヨモギ			◎			
ウリ科						
アレチウリ*				△		
カヤツリグサ科						
シヨクヨウガヤツリ*						◎
ハマスゲ			△	△	◎	◎
イネ科						
ノビエ		○	◎			
イヌビエ			△	△		
オガサワラスメノヒエ◆						◎
チチスメノヒエ◆						◎
メヒシバ			◎	○	○	
オヒシバ			◎			
チカラシバ						◎
エノコログサ			○	△		
ネズミノオ◆						◎
シバムギ					△	
セイパンモロコシ*				◎		
ギョウギシバ						○
アカザ科						
シロザ		○	○	△	△	△
コアカザ*		○	◎		△	△
ソユクサ科						
ツクサ			◎		△	
マルバツクサ			◎			

注) a) * : 我が国に中古から近世にかけて入って来た旧帰化植物、または江戸時代末期～現代に入ってきた新帰化植物である (長田武正の分類による、1976)。それ以前に入ってきたものは、在来雑草に分類した。◆ : 永年草地に発生したものである。
b) ◎ : 発生が多く被害が出ている。○ : 発生は多いが被害は出ていない。△ : 時々発生がみられる。